

SHOKEI



第467号
2009年(平成21年)
9月10日発行

子どもを総合的に理解して、よりよい指導を目指して。

2010年4月 尚綱学院大学子ども学科が誕生します!

- 子ども学科 学科長(予定) 小松秀茂教授あいさつ
- 子ども学科概要説明

(設置認可申請中)

子羊からの一通の手紙

中高職員/平澤和昭

教職員エッセイ

【梅の花】

○勤務1年を振り返って/大学事務員 照井健也

卒業生コラム

はばたき

1985年 尚綱学院大学短期大学英文科卒業
フォトグラファー/鈴木江美さん

- 情報掲示板/学校行事報告 ●高校総体結果報告 ●同窓会だより

表紙写真/高総体・東北大会・インターハイ 高跳び出場 平野未来

SHOKEI 2009 467 2010年4月 尚綱学院大学子ども学科が誕生します!

発行 尚綱学院後援会 〒981-1295 名取市ゆりが丘4丁目10番1号 TEL:022-381-3342
印刷 田宮印刷株式会社 仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺5-5-18 TEL:022-295-0281(代)
一冊送料共2,000円

尚綱学院募金事業への協力を



8月10日現在、皆様(830件)から総額49,979,176円のご寄付をお寄せ頂きました。ご協力頂きました皆様に紙面を借りてお礼申し上げます。
募金活動事業の内、中高体育館の改修は7月21日に竣工し、大学図書館も9月上旬に竣工する計画でいます。エラ・オー、パトリックホームの復元については、復元規模がまとまり、来春の着工に向けて着実に準備が進められています。経済情勢が厳しい中での募金のお願いは、大変心苦しい限りですが、偏に尚綱で学ぶ学生・生徒の未来を築くためのものです。一口でも結構です。多くの皆様のご協力を賜りますよう、切にお願いいたします。(募金事務局)

第11回 保育部会同窓会のご案内

●日程 11月7日(土) 11時30分～13時30分
●会場 名取校舎内
●受付 12時30分～13時
●総会 13時～14時30分
●懇親会 14時30分～17時
●会費 2,000円
●連絡先 保育科副手室 381-3416 担当 佐藤 幸子
●大学は2010年4月に「子ども学科」4年制開設を申請中です。正式には認可後のこととなりますが、今回は認可後のことになり、今回の保育部会同窓会が短期大学部として最後の会となります。また、同日午前中には第36回保育科合唱コンクールが行なわれます。この行事に同窓会ご出席者から参加者を募り特別出演も計画しています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

おぐやみ

謹んで哀悼の意を表します。

久慈良助様(78歳)
(大学生生活環境学科教員)
久慈のみ子様(尊父)
6月26日逝去されました。
佐藤政雄様(87歳)
(元短大人間関係科教授)
7月16日逝去されました。
守屋雪子様(95歳)
(元中高教員)
8月22日逝去されました。



尚志祭2009 にぎわい尚綱笑顔市 ～明日晴れるといいね～

今年もこの季節がやって参ります!
今年の尚志祭は大人気の芸能人ライブの他、50もの団体による

出展や発表、さらに芝生エリアでの野外ステージ企画も予定しています。
また、初のこころみとして、今年後は夜祭の趣向を変え、開催両日ともに一般公開終了後に多目的ホールでのイベントを企画してみました。もちろんこちらもお越し頂いた方全員が楽しんでいただける内容となっています。2日目のフィナーレには毎年恒例の花火大会も行うなど、盛りだくさんの内容となっています。
最高のひと時をお届けできるよう、夢あふれる装飾と実行委員の笑顔で皆様のお越しを心よりお待ちしております。

■開催日時
1日目 10月17日(土)AM10:30～
2日目 10月18日(日)AM10:00～

■会場
尚綱学院大学キャンパス内

詳しくはパソコンHPまたは携帯電話HPをご覧ください。

パソコンホームページ
([尚志祭2009]で検索)
http://skmatsuri2009.da-te.jp/

携帯ホームページ
http://m-pe.tv/u/page.php?uid=skmatsuri2009&id=1

表現文化学科主催
第1回 尚綱メディアフェスタ
～今から描きたい～
白石遠近法

遠くから、近くから、過去・現在・未来から、学生と教員88人で思いがけない白石、これまで見えなかった白石を描いてみます。

●開催日 11月1日(日)～3日(火)
●会場 壽丸屋敷・アテネ・白石中央公民館ほか白石市中心部
●主催・制作 白石市民有志・白石市・尚綱学院大学

見どころ いっぱいです! イベント 予定

- ほっかほっかコンサート「津軽三味線・柴田3兄弟出演」
- シンポジウム「地域とマンガ・アニメ」
- インターネット配信「LIVE アテネ」
- 白石本郷まちなみミュージアム 他

本イベント等に関する最新の情報は、下記HPにて随時更新する予定です。ご確認ください。

表現文化学科ホームページ <http://www.shokei.ac.jp/isc/hb/>

お詫び/尚綱誌466号p12 斎藤久吉先生の思い出集出版の記事の中で、塩釜協会は塩釜教会の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

学校と保護者の皆様を。母校と同窓生を。生徒と保護者の皆様を。もっと尚綱を通じてつながって欲しい。そんな気持ちで出来ました!

年6冊5回発送
5月 7月 9月 12月 2月
※9月のみ通常・入募集特集号同時発行

この1冊で、尚綱学院の「いま」がよくわかります。SHOKEI

尚綱誌購読のお願い

尚綱誌の購読を通じて間接的に
母校への支援が出来ますので、ご協力宜しくお願い致します。

①尚綱後援会にご入会いただくと、機関紙「尚綱」が年6冊5回発送されます。(会費は年額2,000円もしくは、複数年でも受け付けております)
②購読ご希望の方は、下記にお振込みいただくか、もしくはお電話いただければ、こちらから専用振込用紙を郵送致します。
③継続購読ご希望の方は、2,000円以上ご入金いただくか、専用振込用紙を同封致しますので、それをご利用ください。
④ご芳名掲載を望まない方は、匿名希望と振り込み用紙の通信欄にご記入ください。

郵便振込口座No 02230-3-2116

お申し込み先
TEL.022-381-3342 電話受付時間 木曜日を除く 平日9:00～15:30
FAX.022-381-3467
E-mail:koenkai@shokei.ac.jp
尚綱学院後援会事務局
〒981-1295
宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

募集中! 記事を読んだ感想、思い出のお写真、情報等
お待ちしております!

お手紙 おハガキ FAX E-Mail にお送りください。

編集委員 徒然日記

「夏休み」は名ばかり
私は毎年、夏休みと聞くと心がワクワクし、ことばかりに計画をたてる。何をしようか、どこに行こうか等と普段出来ないことに挑戦しようとする。しかし、教員となればそう簡単には自分の時間がとれないのが現状である。部活動指導や合宿や遠征とて部活動中心の生活スタイルになる。
生徒の皆さんには夏休みの部活動を通して、いろいろな場面に努力する力を養う基礎を身につけて欲しいと願い、関わらせてもらっている。また、夏休みは親戚や普段会えない人にあたりする機会でもあり、自分のルーツを知る絶好のチャンスかもしれません。皆さんの夏休みはどうでしたか。(C-K)

2010年4月尚絅学院大学 子ども学科が誕生します！

子どもを総合的に理解して、よりよい成長と発達をサポートしたい。そんな「子どもの専門家」を目指すべく、新しく誕生します！

(設置認可申請中)



夢をのせて
保育科から子ども学科へ

子ども学科 学部長(予定) 小松秀茂

ご承知のように、来年4月保育科の伝統と実績を引き継いで、4年制の子ども学科男女共学が誕生する予定です。1955年保育科開設以来、「尚絅の保育」と言われるまでに社会的評価を受けてきた短大部保育科です。現状のままでもよいのではないかの声もなくはありませんでした。しかし、誰の目にも明らかのように、現代の子どもたちを取り巻く厳しくも過酷な状況は、より高い水準の専門性を備えた教育者・保育者を求めるようになってきています。この社会的要請に応えることが私たちの使命であること

認識するに至り、生まれ変わる決意をしたのでした。

子ども学科では既に5学科を擁する総合人間科学部という豊かな教育環境の下で、4年間という豊富な時間と少人数教育体制を最大限に活かして、4つの専門領域(子どもの心理と健康、子どもの保育・教育、子どもの福祉、子どもの文化と社会)を学びます。いっそう深い学びが可能であり、高いレベルの理論と実践力を身につけることが可能です。取得可能な資格は、「保育士」「幼稚園教諭一種免許」「小学校教諭一種免許」です。



子ども一人ひとりの目線に立つことが、子ども同士が豊かに育ち合えるように支援できる。子ども学科はそのような人材(子ども専門家の育成を目指します。この学び理解とご支援をお願いいたします。

※現在の保育科は、現在の1年生が卒業するのを待って廃止される予定です。

1 子ども学科のめざすもの

社会が複雑化するにしたがって、子どもを取り巻く環境も大きく変化しています。こうした中において、多くの社会的・教育的問題や課題が指摘され、それらの解決が家族をはじめ、学校、福祉施設、地域社会など、社会全体で急がれています。

子ども学科では、現代社会における子どもの生活実態を科学的な視点と方法から総合的に理解します。その上で、子どもの成長・発達に必要な支援や援助のあり方に関して深い知識と見識を獲得し、諸問題の解決に必要な支援や援助を行える実践的能力を備えた人材を育てていきます。

6 教育編成の特色は？

保育学・教育学・心理学・社会学・芸術など幅広い分野で、実践経験の豊かな教員が揃っています。特に保育・教育・福祉の現場で勤務した経験のある先生が半数以上を占めています。



5 実習・協力施設は？

附属幼稚園をはじめ、仙台市、名取市、岩沼市など近隣の保育所、児童福祉施設、幼稚園、小学校を実習協力施設として予定しています。

4 取得可能な資格は?(予定)

保育士資格 幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状

- ①「幼少連携」(幼稚園と小学校のつながり)や「幼保一元化」(幼稚園と保育所の一体化)などに対応できるような免許、資格を設定しています。
- ②それぞれの資格に応じて必要な授業科目を履修することで上記の資格が取得できますが、資格を取らずに卒業することも可能です。
- ③将来の夢や興味・関心に応じた資格取得に向けて、履修指導、キャリア形成支援を行っていきます。

3 カリキュラムの特色は？

子ども学科は、子どもを総合的に理解し、より質の高い保育・教育を実践できる「子どもの専門家」をめざすために、保育学、教育学、心理学、福祉学など複数の視点から体系的に学べるよう、カリキュラムを用意しています。

①子どもを理解するための4つの柱

子ども学科には、子どもと子どもを取り巻く環境を多角的に学ぶための4つの柱があります。それぞれの柱を横断的に学びながら、自分の将来の夢や興味・関心に応じて専門性を高めていくことが出来ます。

子どもの心理と健康

子どもの身体と心の発達や、その成長過程に対応した支援について学びます。

- 授業内容
- 乳幼児心理学
 - 児童心理学
 - 子どもの保健
 - 子どもの発達と障害 など

子どもの保育と教育

子どもの発達に不可欠な保育と教育の目的・方法・内容について、理論と実践から学びます。

- 授業内容
- 幼児教育論
 - 教師・保育者論
 - 特別支援教育論
 - 放課後の児童の保護と教育 など

子どもの福祉

子ども及び家庭・地域・社会における福祉の現状や課題、あり方について学びます。

- 授業内容
- 児童福祉
 - 社会福祉援助技術
 - 地域子ども福祉論
 - 国際子ども支援活動 など

子どもの文化と社会

子どもの感性や情緒の発達に文化や社会環境が果たす役割について学びます。

- 授業内容
- 児童文化論
 - 子どもの文化と創造
 - 子どもと地域社会
 - 青少年の社会参加 など

②発展的に応用できる実践力を育む

4つの柱で取得した知識・技能を活かし、さらに高めるために、「現代子ども学」をはじめとするゼミナール方式の授業科目を設けています。より実践的な能力を持った「子どもの専門家」をめざします。

- 授業内容
- 現代子ども学
 - 子ども学研究入門
 - 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
 - 子ども理解の方法(社会学的アプローチ)
 - 子ども理解の方法(心理学的アプローチ)
 - など

2 こんな目標・夢を持っている人を応援します

次のような将来の夢をもっている人に、是非子ども学科で学んで欲しいと考えています。

- ①保育所、幼稚園の先生になりたい。(あるいは将来、保育所・幼稚園を経営してみたい)
- ②小学校の先生になりたい。
- ③児童福祉施設で保育士として働きたい。
- ④公務員(あるいは民間の関連施設職員)になって児童福祉行政に係わる仕事がしたい。
- ⑤子どもの福祉支援活動に関わる市民団体・NPOなどで働きたい。
- ⑥子ども関連産業分野の企業で働きたい。





中高職員 平澤和昭

主はこう言われる。「よまざまな道に立って、眺めよ。昔からの道に問いかけてみよ。どれが、幸いに至る道か、と。その道を歩み、魂に安らぎを得よ。」

エレミア書 6章16節

夏である。夏になるといつもこの聖句を思い出す。それは大学時代のこと。大学時代のある礼拝、自分の担当教官であった先生がこのエレミア書を選ばれた。その礼拝はたった2人きりで執り行われたものだった。(今思えば、随分奇妙な礼拝風景だったと思うが...)しかし先生はいつも増して強い口調で上記のエレミア書を説き明かしてくださった。そもそもエレミア書とはBC7〜6世紀に分裂していたイスラエルの南ユダ王国で召命を受けた若者エレミヤが、挫折し、転落する王国のなかでそれでも預言し、裏切りと迫害の苦悩を告白している書である。旧約聖書は「わかりにくい、長い」といった理由で敬遠されがちである。しかしそこには神の御言葉と同時にそこに創られた人間の真実な姿も浮き彫りにしている。裏切り、挫折、苦悩のつまり旧約聖書にはリアルな人間の姿があるといえる。先生は説教の最後にこう言われた。「人間結



局どんな選択をしてもそこには限界があります。だからこそ、いやそれゆえにわれわれは真摯に全能の神に向かい合い、真摯に自らの告白をし、この道を歩むことが神の御心なのかを問い続けなければならぬ。」「あれほど神の御言葉に静かに、しかし深く深く耳を傾けた経験は後にも先にもない(恥ずかしながら)。今年も高校3年生の担任である。進路を決定するために毎日「真摯」な問いかけをする生徒たちが学校へやってくる。その度ごとに「祈らざるうえない」神様：この選択が生徒たち一人ひとり、そして貴方の御心にかないますよう...お守りください。」と。

卒業生コラム

はばたき 第8回

鈴木 江美さん

フォトグラファー

1985年 尚綱学院大学短期大学英文科卒業

1985年 尚綱学院大学短期大学英文科 卒業
出版社 入社
1988年 コマーシャルスタジオ 入社
1997年 フリーとなる
月刊誌「りらく」
季刊誌「仙台トラビス」
医療情報誌「てとてとて」等
2004年 ~イタリア・夏の光~ 個展



Emi Suzuki

この仕事を選んだきっかけは?

元々絵が好きで、その思いが最初のきっかけだと思います。就職は希望の出版業界に就いたので、そこで写真を撮り文章を書く編集作業に携わり、人に伝えるというおもしろさを実感しました。心魅かれる被写体の一瞬の現実を、他の人にも見せられたらと考え、コマースタルスタジオに入社したのは尚綱短大を卒業した3年後の23歳の時でした。

仕事上の印象的なエピソードは?

川で魚をモリで捕っていた少年達の清々しさ、宮城出身の漫画家、故石ノ森章太郎先生のオーラ、職人さんの年輪の入った横顔等、いろいろな人たちの人生を撮らせていただく事は喜びです。パラグライダーの取材でインストラクターの方と一緒に初めて空に浮かんだ



教職員エッセイ

梅の花

Vol.8

大学事務員 照井健也

勤務1年を振り返って
情報を発信する
その必要性の
大きさに驚き
感じた出来事。

勤務して1年が経ちます。入試広報課に配属され、自分の頃の大学入試の状況とがらり変わっていることに非常に驚きました。語弊を恐れずに言わせていただくと「大学生が就職活動を行うような感覚で、入試が行われているようにも見えます。」

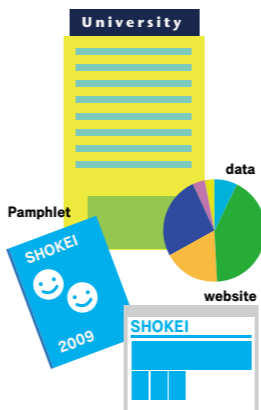
私の業務は大きく「入試」と「広報」があります。「広報」では、進学サイト、受験雑誌、パンフレットなどの広報媒体を駆使し高校生へアピールします。私はその媒体の原稿を様々な会社の方とやり取りをして原稿を作ります。私の頃にも受験雑誌はありましたが、学校の広報がここまで積極的な方法や手段を利用する必要があることに驚きました。また、そこにたくさんの方が関わっていることが存在していたことは非常に新鮮でした。大学が生徒を選ぶのではなく、大学は生徒から選ばれている時代だ!と何かの記事にありましたが、今まさにそれを現場で感じて

います。

私が大学進学したのは約10年前ですが、その頃と昨年の進学率を比べると約10%もアップしていました。少子化の中で受験生が増えるという状況は、受験層が多様化し、偏差値だけではない新たな価値基準が増え、学校が置かれている環境は、否応無しに変化が激しいものとなってきているように思います。

元々採用関連の仕事に携わっていたことが影響していると思っておりますが、求職者と会社の関係のように「高校生と大学がマッチングする」という価値観がこれから定着する可能性もあるのでは、と思うことがあります。そういった市場環境では「こんな学生を育てて社会に輩出します」という学校側の強い姿勢、学生を教育する能力がより厳しく問われる時代になる気がしています。

私はまだまだ尚綱学院を心から理解した上で語りきれませんが、勤務1年を通し、高校生に響く尚綱学院らしさを見つけ、しっかりと発信していけるようになりたいと考えているようになりました。



時にはかたまつてしまいいし、しばらくフラインダーをのぞけなかった事も多々はいい思い出です。

夢を追う尚綱生にアドバイスを

社会に出て心から感じた事は、「もっと授業を真剣に受ければよかった!本も読み、いろいろな事に興味を持って行動できたのに!」ということですね。今、みなさんは自由な時間があり、学校では

勉強に集中できます。みなさんは可能性のかたまりで、これから何でも挑戦できるでしょう。苦しい事にぶつかったら、それはチャンスです!あせらずに頑張ってください。



様々な方の、人生を撮ること。それが自分の、喜びに繋がっていきました。

TIME SCHEDULE
ある日の鈴木江美さんを追う!

- 7:00 起床
- 9:30 施設外観 撮影
- 11:30 雑誌編集部 納品&打ち合わせ
- 12:30 昼食
- 13:30 取材地(松島)へ移動
- 14:30 雑誌特集記事 取材(温泉・風景・カフェ等)
- 19:00 帰宅
- 20:00 メールにてページ構成の確認
- 21:00 デジタルデータPC処理作業
- 23:00 全国紙など、資料の参考
- 01:00 就寝

情報掲示板

活動的な夏の季節の様々なイベントを終え、校内にも穏やかさが戻ってきた初秋。今年の夏の尚綱学院の動きを、写真と共に振り返ってみましょう。

法人事務局

大学図書館竣工礼拝・開館式のご案内

かねてより建設を進めておりました大学図書館が8月31日(月)に無事竣工致しました。皆さまより多大なるご支援・ご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

つきましては、開館に先立ちまして竣工礼拝・開館式を執り行います。卒業生の皆様、市民の皆様、ご多忙の折とは存じますが、皆様お誘い合わせのうえ、ご参加くださいますようお願いいたします。

- 大学図書館 竣工礼拝・開館式
 - 日時 2009年9月28日(月) 午前10時30分
 - 場所 名取キャンパス 学生会館多目的ホール、大学図書館 (名取市ゆかり5丁目10-1)
 - 問合せ先 法人事務局 企画課 担当(田中) 電話 024(500)7000

幼稚園

交通安全教室

7月1日(水)、幼稚園では交通安全教室が開かれました。交通指導隊の方たちと、お人形のケンちゃんに、信号の見方、横断歩道の渡り方などを分かりやすく教えてもらいました。また、手作りの大型紙芝居を読んでもらったり、クラスごとに横断歩道を読む練習もしました。子どもたちは教えてもらった事をしっかり守りながら上手に渡っていました。最後に信号マン体操をし、交通ルールについて大切な事を楽しく学べた1日でした。



(幼稚園教員 川田裕子)

お泊まり会

7月15日(水)、16日(木)、年長児5名と教員12名で蔵王自然の家にお泊り会を行いました。



まり会に行きました。当日の現地の気温は31度を越す猛暑日となりましたが、暑さに負けることなく、大自然の中で活動を大いに楽しみました。冷たい川の中に入って行った「ジマスつかみ」は、魚の後敏な動きやヌルヌルした感触に苦戦しながら、自分とった魚をその場で焼いて食べる経験をしました。また、山の中の探検も友だちの励ましを受けながら最後まで自分の力で歩き切ることができました。



6月1日(日)より、週に1回の給食がスタートしました。始まる前、献立表をご覧になった親御さんから

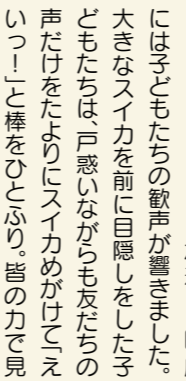
給食が 始まって

おいしいと大人気です！



スイカ割り

夏休み前のおたのしみとしてクラスごとにスイカ割りを楽しみました。当日は、梅雨の晴れ間の光が差し、園庭には子どもたちの歓声が響きました。大きなスイカを前に自隠しをした子どもたちは、戸惑いながらも友だちの声だけをたよりにスイカが割けて、「えいっ！」と棒をひとふり。皆の力で見



事に割れたスイカを見て大喜びでした。そして、応援で乾いた口にとてもあま〜いスイカをほおぼり大満足の子どもたちでした。



(幼稚園教員 坂本由佳里)

中学校

朗読コンテスト

7月17日(金)に校内朗読コンテスト(本選)が行われました。朗読は体験年数の多い上級生になるほど熟練されていきます。1年生では丁寧で素直な読み、2年生では感情表現が上手になり、3年生では地の文にまでも細かな感情表現が加えられていきます。やはり今年も3年生のクラス予選が激戦でした。クラス予選を通過したメンバーでの合同練習会では、互いに朗読を聞きあって評価し合う姿も見られ、ともに磨きあつことの素晴らしさを



- 感じました。結果は次の通りです。
- 最優秀賞 3年 中村折美恵さん
- 優秀賞 3年 栗村代央さん
- 優秀賞 3年 竹内杏子さん
- 優秀賞 2年 山本 咲さん
- 優秀賞 1年 村上乃絵さん

高等学校

バスケット部 県大会に出場して

チームを引っ張りながら奮闘し、新しい目標

今回の県大会は私にとって、次に進んで行くための壁だったと思います。これを叶えるために、日々の練習にも力を入れて取り組んできました。しかし、私たちは2回戦に進むことが出来ませんでした。悔しさもありましたが、チームを最後まで引っ張れなかった自分に対しての怒りと悲しみの方が強かったと思います。引退してみてもいいことは、新チームの手伝いをしながら自分も学ぼう。ということなのです。そして、私は高校での部活動につなげていけたら良いなあと思います。新チームとなった今だからこそ、気持ちを新たに新人戦に向けて頑張りたいです。



(部長 遠藤 香季)

平和祈願礼拝

7月22日、今年も、川端純四郎先生をお招きして平和祈願礼拝が行われました。



先生は俳諧のリズムに乗せた詩を紹介してくださいました。8月や、6日、9日、15日。8月はわが国にとって特別な悔い改めの月であります。戦争の記憶が風化しつつある今日、川端先生の平和への訴えは、私たちの胸を打つものでした。

平和学習

戦争を忘れないと



同日講師をされた手島貞一氏。同窓生よりお話を聴く高校生

7月10日(金)、高校1年総進コースで行われた平和学習では、本院の同窓生、福田弘子氏、菊地和子氏、鈴木昭子氏、佐藤幸子氏、鎌田

壕を見学後、手島貞一氏(青葉区八幡在住)同窓生手島ひさ氏の(ご子息)より大変貴重なお話をいただきました。生徒達も感化を受け、平和を実現していくことへの使命感を抱いてくれたようです。戦争の記憶が薄れつつある今日、とりわけ7月10日が仙台空襲の日にあたることに思いを馳せ、改めて平和について考える貴重な機会となりました。



礼拝堂のステージには平和への祈



防空壕を見学する中学生

頑張って英語で発表
7月30日(木)と31日(金)に、2年A組のみなで、「エコキャンプみちのく」の会場でイングリッシュキャンプを行いました。
今年、グループで英語のスキットをつくって演技を入れながら発表しました。英会話のデイヴィット先生の家族も一緒に参加してくれました。先生方が審査を下さり、最優秀賞のグループが決まりました。夜は「コテージ」に泊まって、みんなでハーベキューを楽しみました。
とても有意義で楽しかった2日間のイングリッシュキャンプでした。
(2年A組 山下栞)



情報掲示板

高校総体

日々の練習の成果を！
今年6月上旬より高校総体が行われました。各部とも真剣に競技に取り組む、全力でプレーした素晴らしい試合でした。

全国高校総体陸上大会 「走り高跳び」に参加して



私は全国高校総体陸上大会(インターハイ)に出場し、たくさんの方の応援が学ぶことが出来ました。

陸上部の選手が走り高跳び大会で5位入賞した様子。

陸上部の選手が走り高跳び大会で5位入賞した様子。

(陸上部 平野未来)

合唱部定期演奏会

合唱部にとって年に1度の一大イベントです。この日のために私達は歌だけではなく演技にも挑戦し、自分の役に成り切れるよう創意工夫を積み重ねました。また、何も不自由なく準備が出来たのも先生方や保護者の方々の協力があったからだと、改めて実感しています。



(合唱部部长 山内春香)



バレーボール部 準優勝



サッカー部 第3位



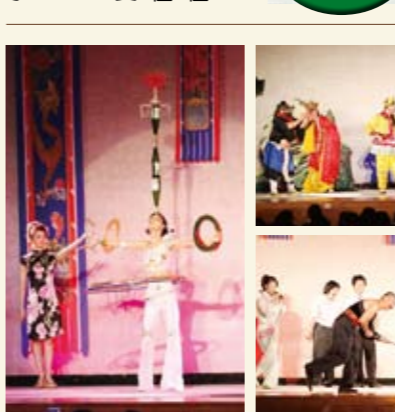
ソフトボール部 ベスト16



バスケットボール部



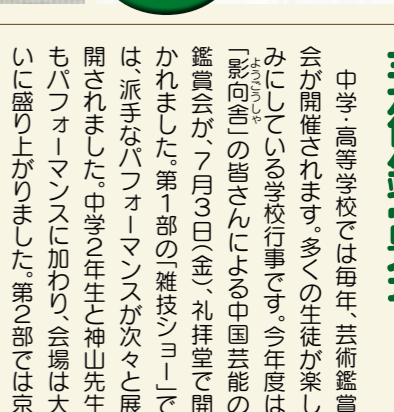
弓道部



硬式テニス部



ソフトテニス部



新体操部

韓国イサベル校短期留学受け入れ

言葉を超えた交流ができました
7月9日(木)から14日(火)まで、姉妹校であるイサベル高校より短期留学生が来日し、尚絅生の家庭でホームステイをしました。学校では授業の他にウォークラリーや調理実習を体験し、日本文化に触れました。全校交流会では素敵なダンスを披露し、両校の親睦を深める時となりました。

韓国イサベル校受け入れに参加して

韓国短期留学受け入れのポスターを見て、私は何の迷いもなく受け入れをしようと思いました。韓国は私が一番好きな国でもあり、昨年修学旅行でイサベル校のみんなにお世話になったという点もあり、今回は私が日本を知ってもらおうと日本と韓国の架け橋になれたらと思う、このプログラムに参加しました。

実際、ヨンスに会ってみると私が話しかける以上にヨンスは私に話しかけてくれました。始めの頃は思うよう



(3年 武藤夕希)

に伝えたいことが伝えられず、パソコンの翻訳機能を利用して会話をしたこともありました。慣れてくると、大体のこの伝えたいことは韓国語で伝えることができるようになってきました。ここが伝わると、会話が楽しくなり感情も伝わることで、増々濃い時間を共に過ごすことができました。

生活の基礎となる食事では、一緒に「たこ焼きや、お好み焼き」を作ったりしてとても喜んでくれました。他にもたくさんのお話や行き、その場所一つ一つに思いができました。観光地へ行くことにより、自分自身が知らなかった仙台の知識が増えて良い機会にもなりました。もともこの留学が短い時間でしたが、過ごしてみてもっと早く感じました。

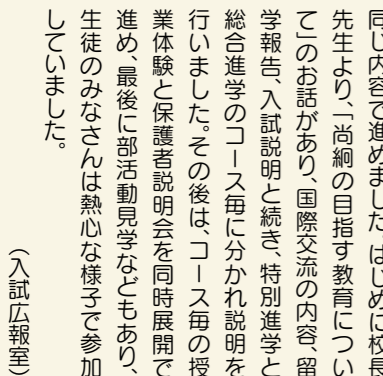
別れは、とても悲しいけれど、今度は私が8月に韓国へ訪問するの機会があれば会いたいと思います。これからも、一つひとつの出会いを大切に生活していきたいです。

オープンスクール



7月25日(土)第1回 中学中高一貫オープンスクールの参加者を迎えることができました。生徒会からの行事紹介や、3A竹内杏子さんによるドイツ短期留学報告があり、デイヴィット先生と佐藤理智子先生による体験授業「Let's have fun with English」などが行われました。

8月1日(土)には、第1回高校オープンスクールも行われました。昨年よりも多い生徒数の243名の参加者を迎え、合唱団より素晴らしい歌声の披露の後、プログラムの開始となりました。今年は、午前と午後の部をほぼ同じ内容で進めました。はじめに校長先生より、「尚絅の目指す教育についてのお話があり、国際交流の内容、留学報告、入試説明と続き、特別進学と総合進学のコース毎に分かれ説明を行いました。その後は、コース毎の授業体験と保護者説明会を同時展開を進め、最後に部活動見学などもあり、生徒のみならずは熱心な様子で参加していました。



(入試広報室)

芸術鑑賞会

素晴らしいパフォーマンスに大満足！
中学高等学校では毎年、芸術鑑賞会が開催されます。多くの生徒が楽しみにしている学校行事です。今年度は「影回舎」の皆さんによる中国芸能の鑑賞会が、7月3日(金)、礼拝堂で開催されました。第1部の「雑技ショー」では、派手なパフォーマンスが次々と展開されました。中学2年生と神山先生もパフォーマンスに加わり、会場は大いに盛り上がりました。第2部では京劇の解説のあと、京劇「西遊記」が演じられました。生徒たちは勿論のこと、私達教職員も観客の1人となり、楽しい時間を過ごすことができました。劇団の皆さんに心から感謝したいと思います。



(中高教員 小島和幸)

茶道部定期茶会

今年も瑞鳳寺に於いて59回目となる定期茶会を行いました。今年度は、下級生が少なく準備が大変でしたが、皆で協力して何とか茶会までこぎつけました。前日まで雨が降っていて当日の天気が心配でした。ところが、何と朝を迎えるとも良い天気になりました。おかげさまで例年以上に多くのお客様にいらしていただきました。短期留学で来日していた韓国のイサベル高校の先生と生徒さんにも来ていただきました。多くのお客様に励ましの言葉をいただき、とても嬉しかったです。ご指導ご支援くださった先生先輩の皆様にあためて感謝申し上げます。



(茶道部部长 高橋恵理子)



情報掲示板

大学・短期大学

世の中のことを知る

「カンボジアプロジェクト」プロジェクト講演会

講師：シーライツ代表理事

甲斐田万智子氏

テーマ

カンボジアの少女や女性たちの新しい道への支援

「カンボジアプロジェクト」は6月15日(月)礼拝後、甲斐田万智子先生の講演会がありました。お話を聞いて、私は、今まで世の中の問題について世界規模では考えていなかったと実感しました。今回紹介して頂いた「国際子ども権利センター(シーライツ)」では、カンボジアの子どもや女性の権利を守り、自分自身で身を守る事が出来るように教育をする(エンパワメント)ことを、活動の主体として支援を行っているとのことでした。

カンボジアでの生活の現状を知り衝撃を受けました。カンボジアでは貧困が激しく、児童に労働を行わせていること、人身売買が盛んであることを知りました。強制的に、知らぬ間に：自分の意思や選択の余地なく、やらされているのです。幼くして心や体

に傷を負い、暗闇の中を生きているという現状はショックな事実で、何とかして少しでも良い環境にしてあげたいという思いが生まれました。

辛い思いや傷に対して同じ気持ちになって全てを分かち合おうとすることは難しいことでしょう。しかし、その現状を理解し手を差し伸べることは誰にでも出来ることです。

今回お話を聞きましてということ、は、支援への一歩だと思えます。現時点では大きな貢献は出来ませんが、身の回りの小さなこと、自分でも出来ることがあれば、積極的に取り組んで、人のためになりたいと思っています。早速、この講演の終わりに、私なりにささやかながら募金に協力しました。これからも機会があれば続けていきたいと思えます。

(健康栄養学科4年 佐々木綾那)

みんなで団結し楽しみました！

学生会・体育大会

6月20日(土)、尚綱学院大学内で学生会主催の体育大会を開催いたしました。

1年生も入学してようやく大学生活に慣れてきた時期に、スポーツを通してもっと親交を深めてもらおうと、梅雨の最中、午前バレーボール、午後宝探しというプログラムを行いました。参加人数は去年の約3倍、1チーム6人で学科・学年・性別を問わずイベント

リーグ、30チーム参加していただきました。バレーボールは、トーナメント試合で白熱した戦いが繰り広げられました。宝探しは、学生が独自のルールで尚綱の広大な敷地内に宝物に見立てたペットボトルを700本隠し、探してきてもらうという競技でした。少し小雨の降る中、笛の合図が鳴るなり勢い良く各チーム外に飛び出していき700本ほとんど全て見つけられてしましました。

成績に関係なく参加者には楽しんでいただけたと思えます。体育大会は、2009年度学生会常任委員会での初めての企画でしたが「団結」という目標の下に企画する側の私達も楽しみながら運営し、無事成功できたことは今後の活動にも役立つのではないかと思っています。体育大会開催にあたりご協力いただいた学生生活課の方々、先生方に感謝申し上げます。来年度もより良い体育大会が開催できるように学生会常任委員会一同努力していきます。

(学生会企画 高橋友理)



平成21年度東北地区 大学体育大会結果報告

●女子バスケットボール部

6月28日(日)

東北学院大学泉キャンパス

1回戦 尚綱 48-78 山形短期大学

●男子バドミントン部

7月3日(金)

仙台市青葉体育館

1回戦 尚綱 3-1 八戸工業大学

2回戦 尚綱 0-1 東北福祉大学

●男子卓球部

6月28日(日)

東北大学川内体育館

1回戦 尚綱 0-3 秋田大学

●女子卓球部

6月28日(日)

東北大学川内体育館

1回戦 尚綱 1-3 山形大学

(大学事務局 学生生活課)

沢山の保護者の方にお越し頂きました

保護者会

梅雨の合間の晴天となった6月27日(土)第2回保護者会が開催されました。これに先立ち、参加希望の保護者の方には午前より開催された高校生向けオープンキャンパスでの学内の施設見学、体験授業などにご出席いただきました。午後1時から始まった全体会には約190名の保護者が集まり、開会にあたり、佐々木公明学長より挨拶と大学の近況説明、その後



「私の学生生活」というテーマで、保育科/花海やよいさん、表現文化学科/金安舞祐乃さん、人間心理学科/半澤麻衣子さん、現代社会学科/米澤一磨さん、生活環境学科/早藤静香さん、健康栄養学科/大村悠介さんが、学業や実習、学科イベントでの体験談、両親への感謝などそれぞれの想いを発表し、出席者から多くの拍手が沸き起こりました。最後に杉座秀親進路就職部長より、就職の現状と進路就職指導の取組みについての説明が行われました。全体会終了後は学科懇談会が開催され、意見交換や個別相談がなされました。保護者の方々が、本学の現況や取組みをご理解いただき、ご意見を頂戴する貴重な会となりました。お書きの中お越しいただいた皆様にご挨拶申し上げます。

(大学事務局 総務課)

新規プログラムについて

平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援プログラムが採択

文部科学省では、各大学・短期大学・高等専門学校以下「大学等」という。から申請された、各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組の中から、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を選定し、広く社会に情報提供することで、国の財政支援を行うことにより、高等教育の質保証を強化に資することを目的とした新規プログラムである。本学の今回採択された「主な取組概要等」は以下の通りです。

○取組名称

「持続的就業力獲得をめざす学士力向上支援プログラム」

○取組概要

このプログラムは、本学の求める学士力のなかでも社会生活の基盤となる「汎用的技能」「自己管理能力」「コミュニケーション能力」の学習支援及び「社会的責任感」の確立支援に主眼を置きながら、教育と就職支援を一体化させた取組であります。

事業の主な柱は以下の4点で構成します。

- ① 低学年における基礎学力補完のための学習プログラムの実施と高大連携による学習システムの構築
- ② 社会常識獲得支援
- ③ 個々の学生に対応した社会把握能力と自己判断能力および意思決定能力の養成
- ④ 同窓生と連携した就職支援情報システムの展開

○取組期間

平成21年度～平成23年度



沢山の方がいらっしゃいました！

オープンキャンパス

OPEN CAMPUS in Summerが

今年も8月1日(土)に開催されました。オープンキャンパスはここ数年、6月7月も開催しており9月26日(土)にも実施する予定であります。これ以外にも随時高校生の大学見学を受け入れておりますが、この催しが一番盛大なものとなっております。

当日は多くの高校生、および保護者の方々においでいただき、各学科で用意した体験学習に参加いただきました。キャンパスツアーと題して6月に完成した生活環境学科の「工場」ラボと呼んでいる実習棟を始めとする学内のさまざまな施設を見て回るツアーに対しても予想以上の希望者が集まりました。また、来年度新設予定の子ども学科では5つの体験学習を用意しましたが300名を超える方々が

エクスเทนションセンターより案内

市民大学など「元気塾」

一宮沢賢治の世界へようこそ

講師：ほしゆきえ(女優)

●開講日時

- 第1回 9月29日 「注文の多い料理店」
- 第2回 10月20日 「黄いろのトマト」
- 第3回 11月17日 「鹿踊りのはじまり」
- 第4回 12月15日 「氷河鼠の毛皮」
- 第5回 1月10日 「なめと山の熊」
- 第6回 2月16日 「水仙月の四日」
- 第7回 3月16日 「セロ弾きのゴーシュ」

(火曜日 13時～14時30分)

●開演場所：生涯学習センター

●受講料：無料

●問合せ：申し込み

尚綱学院エクスステンションセンター

電話：022-338-1333-15

尚綱学院大学生涯学習センター

電話：022-338-11490

9年度生涯学習講座 後期受講生受付中

同窓会 コーナー

関東支部千葉最寄会報告



昨年の「鬼怒川温泉日帰り」に続き、本年は6月30日(火)11時30分より会費2,800円で30名の参加者を迎え、南柏農園レス

八三会・墓前礼拝

8月3日(月)約60名出席のもと墓前礼拝を行いました。(詳しい様子については、12月発行号をご覧ください)

新役員紹介

5月16日(土)の同窓会総会にて承認されました。今期役員をご紹介します。

《同窓会本部》10名

- 会長：鶴間順子
- 副会長：木村相衣子、福土淑恵
- 会計：菊地和子、三浦律子
- 書記：佐々木いすみ、村井厚子
- 役員：齋洋子、山内京子、宮内仁子
- (監事)2名
- 福田勝子、鎌田久仁子

以上、宜しくお願致します。

支部名	開催予定日
大崎	10月3日(土)
気仙沼	10月10日(土)
仙南	10月17日(土)
山形	10月24日(土)
石巻	11月14日(土)
海東	11月21日(土)
東	12月5日(土)

※参加ご希望の方は、同窓会事務局までご連絡ください。

クリスマス讚美礼拝・祝会のご案内

日時 12月12日(土) 場所 広瀬校舎 受付 12時 開始時間 12時30分 説教者 未定 会費 500円 ☆皆様のご参加をお待ちしております。(連絡先) 電話・FAX 022-338-5830 メールアドレス osokai@shokei.ed.jp